企画・制作=京都新聞COM

未来のコンパスProject

［新たな可能性］

このプロジェクトは、京都のマスメディアが中心となり、京都の人たちの力を結集して、みんなで前向きになれるきっかけをつくる啓発キャンペーンです。特別寄稿［新たな可能性］第3回は、星野リゾート代表の星野佳路さん、THEATRE E9 KYOTO芸術監督のあごうさとしさんに寄稿してもらいました。――この先の、その先の、新しい日常へ。

主催＝未来のコンパスProject実行委員会（京都新聞／KBS京都ラジオ／エフエム京都）
後援＝京都商工会議所／(一社)京都経営者協会／(一社)京都経済同友会／(公社)京都工業会
協力＝日商社

「マイクロツーリズム」へのいざない

星野佳路 星野リゾート代表

組織というものは、業績が悪化すれば不安に苛まれるものだ。ここで経営者が取るべき行動は、組織のメンタリティーを一定に保つ「こうすれば大丈夫」という情報発信だ。コロナ禍のように組織全体が危機に直面した時、スタッフ一人一人が、経営者が考える会社の生き残り策に共感し、何をすべきかを理解し、発想し、行動することこそ何より重要だと信じている。

コロナの波が国内で勢いを増した3月末、「18カ月の生き残り戦略」など、社内への情報発信量を一気に高めた。経営者としてベストな生き残り策を発信し、フィードバックを戦略に反映させた。「3密回避」の徹底に始まり、人気のビュッフェもやめた。顧客からビュッフェはやめるのではなく、安心・安全が確保されたビュッフェの提供を期待されているとの声が上がれば、6月末に「新ノーマル」ビュッフェを提案し、好評を得た。コロナ禍においてはまず魅力を犠牲にしてでも対策を徹底する。それが旅を選ぶ条件になっているからだ。それを前提に、魅力を創出・回復していくしかない。現場の声は顧客の思いであり、大切にしたい。

観光マーケットは、端的に言えば「インバウンド」「大都市圏」「マイクロツーリズム」の三つだ。コロナ禍ではインバウンドは当面期待できないだろうし、大都市圏市場には波がある。安定するのは自宅から1時間圏内のマイクロツーリズムだ。市場は小さいが、リピート率が高いことは90年代からいわれてきたこと、全国の観光地がノウハウを持っている。パニックに陥るとマーケットを冷静に見られないものだが、日本の観光市場は28兆円、このうち、インバウンドはたった17％でしかない。インバウンドを失ってパニックになった。しかし、日本人の海外旅行者は2千万人といわれ、これが国内に戻るとすれば、失う金額は1.8兆円くらいだ。大きな市場がそこにある、前を向きたい。

課題は都道府県の移動制限だろう。仮に再び緊急事態宣言が出た場合、移動を県内に限定されてしまうと市場は9割減といわれている。マイクロツーリズム市場・商圏を意識し、きめ細かい制限を検討してほしい。

観光事業において、私の考える生き残り策は、売り上げ対前年比4割減以内、コスト削減は15％を目指すというもの。政府の雇用調整助成金は固定費だった人件費を売り上げに合わせ変動費化できる制度だし、持続化給付金など中小企業には有利な制度をうまく組み合わせ、3密回避・IT化などの原資とすべきだ。今は利益を出す時期ではない。ここに需要の平準化がうまく機能すれば生き残れると思っている。失った利益を取り戻すのはコロナが終わった後、「アフターコロナ」期に復活を早める策も今から考えておきたい。人材を維持し生き残ることこそ、急速な回復において鍵となることは言うまでもない。

京都を含めインバウンド比率の高い観光地のショックは大きい。だが、京都の将来、日本の観光産業の成長を考えたとき、このままでよいのだろうかとも感じていた。日本には何度も観光ブームがあったが、インバウンドもそれに終わるかもしれない。しかし、京都は「一度行って終わり」の観光地ではない。リピーターを増やす取り組みへの準備を加速すべきだ。日本人に対してもそう。京都観光を支えているのは日本人リピーターであり、コアな市場だ。京都ファンの自覚とプライドをもって何度もいらしていただけるようなおもてなしの提供とその仕組みづくりを考えるときに今を充てたい。

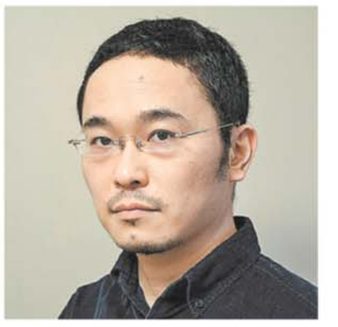
最後に、旅行者の皆さまに申し上げたい。過去20年、皆さまは海外など遠くに行かれたことと思う。今こそ、ご自宅から1時間圏内の、昔から知っている地元の観光地を訪ねてほしい。その多くはこの10年で様変わりしており、きっと皆さまを魅了するはずだ。おもてなしの準備はできている。

◎1960年長野県軽井沢町生まれ。慶応義塾大卒。米国コーネル大ホテル経営大学院修士課程修了。91年星野温泉（現在の星野リゾート）社長に就任。現在、国内外にラグジュアリーブランド「星のや」など5ブランド、45拠点を展開。2009年嵐山で「星のや京都」を開業した。

芸術的思考に立つ

あごうさとし THEATRE E9 KYOTO芸術監督

人生においては時折、目の前から、大切な人がいなくなることがある。試みにいくつかの記憶を記す。幼い子らが、すし詰めに昼寝をしており、自分だけが目覚めて、母のいないことを心細く思っている。家族以外誰も知らない、香港という地に移住し、間接照明だけの薄暗く湿度の高い部屋で妹の手を握る。祖父の死。父の死。いずれも、心が揺さぶられるような経験であるが、共通しているのは、それ以前の過去を思い返すという行為ではないだろうか。そうして時の流れそのものに悲しみを感じている。



若い時に旗揚げした劇団が10年ほどで解散したことがある。劇作家、演出家としての私には、共に表現をする仲間でありメディアを失ったということになる。以降、出演者の存在しない演劇は可能か？という問い掛けとともに、いくつかの無人劇を創作した。演劇とは何かを問う行為でもあった。2500年間あるいは、それ以上の長い歴史をもって演劇は現代に至っている。演劇の原初と考えられているのは一般に、儀礼または遊びである。なにがしかの中心が設定されてそこに人々が集う。中心を担うのは、無、神、太陽、炎、鏡などであっただろうし、コミュニケーションモジュールとしての巫女、祝詞、踊り、そして文字があった。それらを通じて、祈りと名付けられた日常的話語を超えた多次元の声が、そこに集う人々と共有される。このような営みは現代の私たちの暮らしにも脈打つ。

2020年3月21日に、演劇作品「無人劇 unmanned play」のチケットを発売した。「人のいない劇。それは、出演者もスタッフも受け付けも、そして観客もいない劇。その場合、できることは、呼び掛けること、呼び声を発すること。おそらく唯一可能であろう原理のみを用いて、演劇を行う」というコンセプトを提示し、上演日時4月29日（水・祝）午後2時、チケット一般3000円、学生1000円を示した。加えて以下のお願いを申し上げた。

「作品のコンセプトの都合上、どなたさまもご来場なさいませぬようお願い申し上げます。開演時間になりましたら、その時間にお客さまのおられる場所で、一度、大きく呼吸をいただきますことをお願いいたします。入場料収入は、THEATRE E9 KYOTOの運営費として活用させて頂きます」

望外にも134人の参加申し込みがあった。緊急事態宣言下の4月29日の午後2時をどのように過ごしたか、劇場へのメールが数通届いた。SNS上でも、いくつかのつぶやきがあった。「昨日14時に息を吸ったから」と、翌30日に2件の入金があった。概念の集い。私は深い呼吸の中で、皆の健やかな日常を切に願った。少なくとも舞台芸術作品は市民と共にあることを改めて思い至った。同時に「無人劇」の原初的な在り方にたどり着いた。

芸術は常に普遍性をはらみつつ、新たな表現を模索する悠久の運動といってよい。運動の更新には、悲しみや強い制約が寄与することも多い。そのような働きは、芸術の分野のみならず暮らしや経済においても同様のことがいえると思う。現在においては、全人類が等しく享受する、「創造すること」を誘発する時代に電光石火的に突入している。言い換えれば、どんな些細な自明なことでも、改めて考え直すことを求められる時代であり、芸術的思考の最初のステップにすべての人が立っている。自らが考え、感じ、イメージを起こし、他者を求め、行動や表現に移すとなれば、芸術家の日常と変わりがないのではないだろうか。希望的妄想だが、全人類が芸術家として誕生しているのかもしれない。

この春からは週替わりに新たなリアルが立ち上がっているようで、かような時間の体験は未知だ。春の自粛期間のことを読者は今、どのように感じているだろうか。昨日のことか、もう昔のことか、今も続いているのか。私にはどのくらい遠いのか定かならない。思い出すのは、これまでにない眼精疲労に悩まされて見る、青い空とまばゆい新緑、涼やかな風。道に咲く花を美しいとも思った。この小さな体験は、私には清冽だった。

◎劇作家、演出家。「複製」「純粋言語」を主題に、有人、無人の演劇作品を創作。2017年度京都市芸術新人賞受賞。第7回京信・地域の企業家アワード優秀賞。一般社団法人アーツシード京都代表理事、京都芸術大舞台芸術センター主任研究員、同志社女子大嘱託講師。

◉未来のコンパスProject「はじめる一歩」宣言

**コロナ禍でも皆さんと音楽で密接につながれる方法を探して、リモートセッションや生配信ライブなど色々とトライしています。
生活に制限がある中ですが、決して腐らずに知恵を絞って今を共に生きましょう。**

［夜の本気ダンス］

**これまでだって、きっといつでも「はじめる一歩」を踏み出せたはず。だけど世界が変わった今、誰もがいろんな一歩を踏み出そうとしている気がする。
だから私も、歩きはじめる。
つよく生きたいから。やさしく朗らかに笑っていたいから。**

［元宝塚歌劇団宙組トップ娘役・野々すみ花］

今年は新型コロナウイルスの影響で、プロ野球も開幕が遅れるなどイレギュラーな状況となっています。そんな中、僕自身が意識していることは柔軟に対応することです。一人でも多くの方に元気と勇気を与えられるように全力投球で頑張ります。

［横浜DeNAベイスターズ・上茶谷大河］

©YDB

◉各界で活躍する方々の「はじめる一歩」宣言を連日更新。
あなたも「はじめる一歩」をシェアしませんか。
Twitter／Facebook：「未来のコンパス」で検索

まだ見ぬ地図をみんなで歩く

未来のコンパス Project

新しい日常を共有しよう。

世界のいろいろなことが変わりつつある今
私たちが歩もうとしているのは、これまでなかった新しい地図に描かれる道。
期待と同じくらい不安もいっぱいありますが
一人一人の小さなチャレンジが、きっと道を切り拓くコンパス（羅針盤）になるはず。
まだ見ぬ地図、まだなき道を、みんなで歩いていく「未来のコンパスProject」。
私たちと一緒に新しい日常へ。「はじめる一歩」しませんか。

京都から皆さんに元気を届けたい!! 公式Twitter・Facebookでは、京都ゆかりのあの人やこの人の「はじめる一歩宣言」を公開中。皆さんも新しい日常として実践したり、挑戦しようとしている「はじめる一歩」を **#みらコン** を付けて投稿してください。（9月30日まで）

主催：未来のコンパスProject実行委員会（京都新聞・KBS京都ラジオ・エフエム京都）　後援：京都商工会議所・(一社)京都経営者協会・(一社)京都経済同友会・(公社)京都工業会　協力：(株)日商社

私たちは「未来のコンパスProject」を応援しています

アサヒビール株式会社　茨木屋　石清水八幡宮　上原成商事株式会社　打田漬物商工業株式会社　裏千家今日庵　株式会社NTTドコモ　NTT西日本 京都支店　大阪ガス株式会社　医療法人仁愛会 川村産婦人科　株式会社キッズカンパニー　株式会社響映　京懐石 美濃吉　京都鰹節株式会社　医療法人啓信会 京都きづ川病院　株式会社京都銀行　学校法人京都産業大学　京都サンダー株式会社　京都市民共済生活協同組合　京都信用金庫　京都青果合同株式会社　京都中央信用金庫　株式会社京都東急ホテル　京都府瓦工事協同組合　京都薬品工業株式会社　京料理 六盛　清水寺　キリンビール株式会社 京滋支社　株式会社きんでん 京都支店　臨済宗大本山 建仁寺　株式会社公益社　有限会社洸春陶苑　護王神社　株式会社小嶋商店　浄土宗大本山 金戒光明寺　株式会社サン・クロレラ　ジーク株式会社　株式会社ジェイアール西日本伊勢丹　天台宗 寂光院　株式会社しょうざん　浄土真宗本願寺派　株式会社SCREENホールディングス　星和電機株式会社　総本山 醍醐寺　株式会社大藤　株式会社大丸松坂屋百貨店　学校法人大和学園　大和ハウス工業株式会社 京都支社　株式会社髙島屋京都店　株式会社辻利兵衛本店　株式会社天空PR　土井志ば漬本舗　株式会社トーセ　株式会社ドライブ・ドア　中沼アートスクリーン株式会社　西日本旅客鉄道株式会社　NISSHA株式会社　日新電機株式会社　日本公認会計士協会 京滋会　日本生命保険相互会社 京都支社　日本たばこ産業株式会社　学校法人二本松学院 京都美術工芸大学　総本山 仁和寺　野村證券株式会社 京都支店　株式会社花市商店　株式会社日立製作所　宗教法人平等院　富士ゼロックス京都株式会社　佛教大学　大本山天龍寺塔頭 宝厳院　保津川遊船企業組合　舞妓の茶本舗　株式会社増田医科器械　三井不動産株式会社 京都支店　壬生寺　株式会社村田製作所　村山造酢株式会社　彌榮自動車株式会社　株式会社ローバー都市建築事務所　株式会社ロマンス小杉　株式会社ワコール